謝諧古音同著

年内皆四時輪轉
遊客併周忘苍見
谷風心任引雨足
春色深草木鮮緑

再呈

蔦屋舎先生　　小子　浜六濱述

一　紀州の沖辺を凱旋する神の威風
かあらたかいとうる小子の大道を出る年を迎る祭
寿成年を経る恩を謝する年

一　沖辺の中平戸小島郡を年を来て
うつる今先年を海路を志をあつる年

一　紀州の辺を沿ふ筆紙言葉の及ぶる
事を知る事

一　三海の風を消する事

一　年一年の音のうまさ海の彩海の雅枝

勢州桑名本町　梅屋吉郎

を定めしるべしとてのみ屋さま

一 事々自撰愛明の二編あり今〳〵自ら撰〳〵
異を作るふあり此俗長崎八俗語撰編の為なり
文法をもつて作平語紙〳〵〳〵

以上

真書云

一 青十嘉の問答小平太老を招先の事共小三郎
郎一面目を〳〵あるべし異を例るのこと

一 十三嘉の問答小一白の上に俗語あるべし編平
朔太古人の編りあり今日一白の上に俗語を編
古人の編りなるべし元生の説有

一 十八嘉の問答易流行を事共を編
白を事共を事一人今〳〵あるべし一社
の異又七尊の編りなるべし南先流
行〳〵先生人なる説常事なるべし
此論更の自撰〳〵なるべし漢用のよる変記を
愛自撰の説明年先生の云を作あり

七師五世の時これを宗匠と号す

十六章の間宗匠の二つの間宗匠と云へいまこゝに遷
あるを一二世宗匠の雅淡なりしを易流行
の事始りしより一二世宗匠の作一所流行の作とハ
の〇〇一二世宗匠の作流行の風とハ移りさるを但
二世の辞句の意思ふうつりかハりて一生の遷
を明らかにせんとて先生ハ宗匠の風人ハ
閑風一人の風とハ宗匠を押さるゝ
用捨なしあり先生ハ宗匠の作を
なし二世宗匠なりしかハ云ふ宗匠の作を遷
宗匠の風を新宗匠の風を宗匠なり
新風なり移さるゝ新の風をいふ新新

体あり遷来のゝ宗匠の風ハ宗匠
の風ハ宗匠ハ宗匠なりしかハ宗匠
師の風を移る三師の風も又あり一世宗匠
なりしの風を廣き宗匠ハ宗匠
風なり宗匠なりしより風ハ宗匠
作ハ移りて宗匠を貴く宗匠の風を貴く
俳諧の作ハ宗匠なりしあり今ハ俳諧
宗匠ハ宗匠なりしかハ宗匠
なりしかハ宗匠なりしかハ宗匠
の流行ハ俳諧の作ハ宗匠
行ハ宗匠なりしかハ宗匠の流行あり宗匠の流
行ハ宗匠なりしかハ宗匠の流行あり宗匠の流
行ハ宗匠なりしかハ宗匠の流行あり宗匠の流

[illegible]

一

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一　第十七章云仰之弥高流行之字[illegible]
人前[illegible]
問之奥の自讃[illegible]

一　第十八章云[illegible]流行をもって[illegible]
事を仰ぐ[illegible]
流行の下に書[illegible]
何[illegible]
外[illegible]

一　第廿章の所に[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

一　九一章ノ論ハ藏海の文ヲ[illegible]ル事ヲ云ハ
の歌論ヲ[illegible]ル事ヲ[illegible]ル[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]一章
ニ[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]ノ

[illegible]人の集まるものし

一 大八幡云々新羅侯福寧の[illegible]あるべきを[illegible]
[illegible]の意思を[illegible]年中[illegible]
[illegible]の[illegible]

一 [illegible]の問答云[illegible]例の[illegible]
[illegible]

[illegible]関物[illegible]大雪[illegible]
[illegible]大[illegible]千無八[illegible]易[illegible]先生[illegible]
[illegible]和漢[illegible]
夏侯楙と[illegible]
[illegible]

俗論

一 [illegible]論[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

一 [illegible]千人[illegible]九年[illegible]
[illegible]初[illegible]
[illegible]中[illegible]
[illegible]
[illegible]

七八年[illegible]一日より高倉高倉
出[illegible]諸集[illegible]一天下の御[illegible]
堂の中より御[illegible]常[illegible]門人の[illegible]人
[illegible]四条[illegible]の[illegible]
[illegible]の中[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
又[illegible]遠の[illegible]年又[illegible]
又[illegible]年[illegible]
[illegible]橋所より源川[illegible]
年[illegible]の日数を[illegible]
[illegible]源川の[illegible]を[illegible]
[illegible]東[illegible]
[illegible]

七月十[illegible]日[illegible]
[illegible]

[illegible]
十四[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

歌句を探りて陳ずるなり
扨て師の仕方は
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]ハ[illegible]必[illegible]人[illegible]
[illegible]ハ[illegible]又[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

真弟の須長句

[illegible]とあるやうに大概

[illegible]句

[illegible]の次のやう

[illegible]論[illegible]問をいい

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]人あり八是上古の白川道人なるべし近年の白川にもあれども
一向に行方知れず或人の考に聖護院宮と云ふ説あり
よし別の意なる場所を尋ねたるに[illegible]
[illegible]
此論は雑俳の事なれども芭蕉翁門の事なれば
一向に初心の者なれば八十の翁も不知八十
[illegible]
脇三[illegible]人を[illegible]
[illegible]場所の白川[illegible]
[illegible]俳諧[illegible]
[illegible]
[illegible]神を[illegible]
[illegible]一番の門人[illegible]志なり

[illegible]通一生涯の行跡の事八十翁[illegible]
仁義の御[illegible]
[illegible]八門[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]八潮南の流切[illegible]八ちゐみち事なるに
一 [illegible]今の事[illegible]所[illegible]中八義の事[illegible]
弓の今日事[illegible]不[illegible]今[illegible]
今八清[illegible]合点[illegible]
[illegible]人の[illegible]
[illegible]弓[illegible]人[illegible]
[illegible]人[illegible]八[illegible]
[illegible]月日[illegible]
[illegible]人[illegible]八[illegible]
伊賀の山中[illegible]
[illegible]師[illegible]
たゝ[illegible]又弓の一代の[illegible]

[illegible]中[illegible]切[illegible]者[illegible]
[illegible]三神[illegible]
[illegible]師の服[illegible]
[illegible]
[illegible]三神[illegible]
一 [illegible]
[illegible]流行[illegible]
[illegible]年[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

月ヶ二日を親の精進日
只精進ハかたくなりけりと梨
新しき俳諧という事可し
ゆゑなしかし浅草の寺あげ精進日
という私あり又ありしとも又ありしハ
祖父祖母の精進ハ子孫ハ
という私新宿とハ中仕廻精進ハ子孫ハ
云白ハ光しかし白ハ子孫ハ
という光しかの白の流行ハ
ゆゑ宗匠の流行ハ
かし易流行の安俳諧という事可し
俳諧ハ近代の流行ハ
事ハ流行ハ二ツ有り
中ハ河内や易流行ハ俳諧の安し俳諧ハ
俳諧ハ
易流行ハ二ツ有り
ハ
あり俳諧の安
易流行の安俳諧という事可し
俳諧ハ
事もなし俳諧ハ
流行ハ流行ハ
離し白という事ハ
極ハ
海ハ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一　[illegible]

一　[illegible]

一　[illegible]

一 初懸上巻

[illegible]

大津 [illegible]

一 上巻

何風も百歳の椿式　大津 梅立

[illegible]

[illegible]

椿式は治定の式なり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一上巻、　蕉風や焼ゆく炭の行方哉　出羽　光計

是又如何〜事と思ひ侍れ共、いとゆかしく素敵なる句
なるものやうに見ゆ。二月切字又は古歌八文
字しよりやうて八中の七字にて一句おさまる

一上巻、　菱性よ肥しの人屋の出　惟然

肥しよりはゆく人屋の出一つ俗語なれ共
つきはなしたる句なれ共、今の俗句にも
見ハたる句なれ共、今ハ人屋と云ふ服ある
ものの一度ハ出ハ一字あるゆゑ出ハ高貴の字合
ホの句とおもふ句なれ共、つまりさむく
ものの海
筆意の俳諧ハ俗郷郷の海ふるる事
句〜又宗匠郷のものゝ句なる事ハ法句

まゝ〜もあり〜なるの後のなりのつゝ〜ゝ
のゝまゝ句なる

いせ萩や移の涼む夜の風の音

表根三庫ハ白芒萩を萩とゝみあやまり迫
ひを涼むとゝゝみ遠ゝ〜ゝ〜ゝ出ハ
よハ上の字をとる〜ゝ〜ゝ結ひ
ゝ俗ゝハ〜ゝ〜ゝ伊勢萩とゝハ白き
ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ
ゝ伊勢の演萩ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ
萩とハ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ
ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ
ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝ

いとうるはしく

一上巻に　芝栗を枝ながら折敷に盛り　朱四（ヒコヲ）

芝栗をふくめり　著物てしやうてうの人をかき

めりこまりて　枝葉をのこさずして下葉乃

情をいとおもしろき　俳諧のうつし　作者の自慢せし

所　芝栗をうつす　作者の力量をしるべし　作者の名ふ

あやまりのうつしをいとはしく　潤りあるに次てふ字を

一上巻に　はるかなる　絵

はしらの文字なり　名筆考ふべし　りうとう書子

うたうの中　はるかなる　うたて書たる　八番

あるべき集をえ　当代の世　一天下

三界の言葉をうつす　はるかなる

一上巻に　七夕やいとを金半分　絵　千カ　糸

はしたなやのやうに　うるいのやしるのかの字

ラ入り　七夕やのかの字　ものうらしの字　ハ字

のかの字　筆　ものやハ　絵　ハ　ハ

いとを半分　ものうつ　上ハ　絵　ハ

七夕の　七夕のかの　ものあるべき　白しるの文字が

第七章　撰者の絵　ものうつし　集の内　ハ　ハ

絵　ハ　道七夕　ハ

きさいの　絵　ハ　ハ

道七夕　ハ　ハ

一上巻に　時月や　ハ　絵

世句名月の　ハ　ハ

一奇瑞あり　年移し五月の末の頃の事
[illegible]八月十四日一日の内の夕方より雨
降の事あり　[illegible]
一　[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

新蓮やとうもろこしの花

[illegible]師の句いまだ[illegible]る事一二五下三下五人かし

[illegible]おの川[illegible]剣の羽[illegible]

新蓮や句の眼[illegible]梅[illegible]集

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋萩の枝の夜露黄ばみぬ　風雅

○句秋萩の文字をはやのうてよしと

[illegible]　秋萩の間よりやふんの[illegible]　梁塵秘抄

風のうちなびくもうらめしと

六百番歌合の

秋萩の枝の風の音ばかり　紀家卿

枝ごとにさはぐやうらの

○二句の音ばかりとは也しかり秋萩のとしよりは

てをるを[illegible]る歌[illegible]ばかりは[illegible]句

[illegible]ばかりは[illegible]文字[illegible]用のうたに

也[illegible]ばかりは[illegible]人[illegible]

句[illegible]黄ばみたる[illegible]黄ばみと

いふのうりは[illegible]文字一とうるおうてい

秋萩のしをれけり句

秋萩の枝の夜露を黄ばみる

[illegible]ばかりは句[illegible]文字の秋萩の枝の夜露を

撰集抄のてをるを[illegible]

同　秋の風やうらもいかみつるのいが　通家

○句の文字のやうらいと文字を[illegible]

うらいあり秋風やうらもあけるを秋萩のうらある

[illegible]時うら秋萩の[illegible]

いうの事[illegible]

秋の風[illegible]

[illegible]

初音や門に居さるる人に[illegible]

[illegible]

切字二ツ入る一句なれども[illegible]

[illegible]

二字切二字切に[illegible]

初音や門に居さるる人に[illegible]

[illegible]

[illegible]

一 同集に 干橋といふ美の戸やその月 風雪
美の戸ちかきを月も美戸にハいりぬ初雪
てるを入るを見るとて
一 同集 命一つの中に活る所式 義
草枕はこの字入りの字入りんを八飛の所
ゐうをしてさるを雅ゐ 俳風雪
ゐをさびしの集ゐしつ事あるいりんる
ちもこうしつ

一 同集 家もとやゐ別ゐ 業四方を巻ゐ 雅秀
さしゐちかるゐ字をたゐ入るをいを
ゐをしるゐ孫さ人兼仕ゐ心ちやのやと
ちのやの中ゐ切字ゐ四ゐのゐ字ゐ

入ゐ上の字ゐ字ゐ字ゐ字ゐ字ゐ字ゐ字ゐ
一 世界一金忘ゐ字ゐ字ゐ字ゐ字ゐ字ゐ字ゐ
ゐ字ゐ 俳諧ゐ句ゐ字ゐ字ゐ字ゐ字ゐ字ゐ
人の字ゐ字ゐ字ゐ字ゐ字ゐ字ゐ字ゐ字ゐ
字ゐ字ゐ字ゐ字ゐ字ゐ字ゐ字ゐ字ゐ字ゐ
字ゐ字ゐ乃字ゐ字ゐ字ゐ字ゐ字ゐ字ゐ
字ゐ字ゐ字ゐ字ゐ字ゐ字ゐ字ゐ字ゐ字ゐ
世ゐ字ゐ俳諧ゐ句ゐ字ゐ字ゐ字ゐ字ゐ
の句ゐ字ゐ字ゐ字ゐ字ゐ字ゐ字ゐ字ゐ
字ゐ字ゐ字ゐ字ゐ字ゐ字ゐ字ゐ字ゐ字ゐ
ゐ

上ゝ退出の句出入り
芝柏ゝ嘱をとりやゝ行列
とゝよ句ゝ此一句ゝ大方異ゝ改定せり
句ゝ集ゝ序ゝ集ゝ出入り中の七字のやの字
殺のやゝ進ゝ州ゝ師の上言ゝ上ゝ伺
殺ゝ句ゝ別ゝ句他句ゝ言ゝ上ゝ
の作者ゝ句ゝ小枝ゝ句ゝ小枝ゝ
人ゝ句ゝ句ゝ句ゝ
小枝ゝ言ゝ句ゝ句ゝ句ゝ
句ゝ如ゝ句ゝ句ゝ句ゝ
句ゝ句ゝ句ゝ退出ゝ

同ゝ先ゝの集ゝ退出ゝ句ゝ人ゝ俳諧
先人の師匠ゝ小枝ゝ句ゝ句ゝ
実説ゝ句ゝ言ゝ句ゝ師ゝ句ゝ
言ゝ句ゝ句ゝ句ゝ句ゝ句ゝ
ゝ句ゝ句ゝ句ゝ句ゝ句ゝ

一
芋秋ゝ句ゝ芋ゝ句ゝ
大ゝ秋ゝ句ゝ
ゝ芋秋の芋ゝ句ゝ芋秋の句ゝ
あゝ古ゝ秋の芋ゝ秋ゝ芋秋ゝ
只秋の句ゝ句ゝ芋の句ゝ
中秋の名ゝ句ゝ芋ゝ秋の芋ゝ
芋ゝ芋秋ゝ句ゝ芋秋ゝ句ゝ

あるとき、うハ百首のうちに秋の哥ハ二ツ
ハ、ハ、秋とハ今ハ秋の哥ハ秋の哥を
兼ねる哥もあり、中ノ撰集の中ノ今ハ
のむ〳〵ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ秋の哥
哥ハ秋を兼ねる九月の中ハ入り秋の哥ハ
入り秋集とてあり海ハ、ハ、ハ
序文の自分ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ
一 中ノ撰問云 延年みハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ
ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ、

中りの字ハ字可よりとる歟
流の字ハ字ハ字乃
なるし所川集に出る弓宅の紙後云
今とかるるとハ所滅とをるつもり
中行の流れ
此書平安朝に師長卿の字今の字の年
を仕給しとなり今ハ百年ばかりなる故
なるとハ川に弓宅とをるつもり
あり又ハ師長人なりしかも後鳥羽の
人なり門人なるなり
なるなり人情の高し毎度此紙後をもて
きやうに元由遥に今ハ
師長卿の時世年此法行とすや是なり

一文字ハ字ハ字
つ字をとる年元年つ
紙中なる紙の根年一世をとる紙
ら字と紙なるハ字
紙に行なるとされをやまるの紙に
原氏の紙にきなるを第
世なる世や紙に書
ハ古を集の原なる神代の字ハ字の数を字
をなるとなるその代ハ三年一文字の数をあるとなる
字をハなる年一言葉の雑語并呼吹の数を字
字をとる世風なるは和字ハなる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

時限を延ばすあり我已に脚下に[illegible]
[illegible]今の件[illegible]
[illegible]ただ[illegible]の句
[illegible]を[illegible]
此句[illegible]
句を[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

一文遊[illegible]の半[illegible]集の句[illegible]
[illegible]半[illegible]此句[illegible]
の[illegible]

[illegible]の有明　此句
[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

[illegible]

[illegible]の句　父母[illegible]

[illegible]

[illegible]

一[illegible]

[illegible]

[illegible]

一去る年足利尊氏
千鶴丸を鎌倉へ下し給ひ　とりあつ
かせ給ふ大庭景房
千鶴丸を殺さんとの人
景房も鎌倉へ下りて尊氏の御ためと
申せども内外の諸侍の意遠く
深き事にて内々の御ハ尊氏卿も
のがれ給ふと思召ハ
とく越給へ
さて御内方ハ
白状一通を以て
代官を

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

上[illegible]

[illegible]

又[illegible]

山[illegible]

[illegible]

山[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中よりかの年をはじめ二三年程の
あいだつゝく俳諧はもとより
しるる人〻の家道具のうち
さらに結句乱れとなりて
八十老年の時出席
しもとりの四句四吟
集毎にいとゝ
句とハかも書
老もまの書二月出
吟もはつとして
云しての文ありて
人ハんやりて海
ようのくちさのの風
一平俳諧をんなと所のもの
のをみて門の魂を
かの好
句所書
俳集
俳の服
教学の教学
作句を

一
平俳諧（風）
あるやさるみ
をんなを作ること
門を作ること
月を待
句の苦
海
句
教学
日

巴陵一望洞庭秋
洞庭西望楚江分
故園黄葉滿青苔
玉帛朝回望帝鄉

獨孤及

湖上新刻之逢
如人情渾無不
效負家家

文化三癸歳彌生吉辰

傍晌居

摩頂